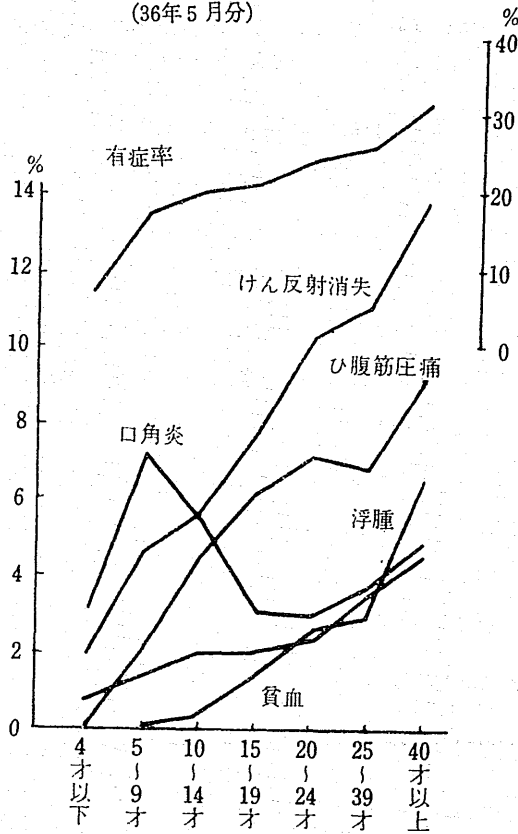


第11図 症候保有の年令別発現率 (36年5月分)



4) 性別発現率

次に性別の発現率をみると、男子の有症率18.1%に対し女子は25.2%で男子の有症率を大きく上回っている。

個々の症候についてみると、例年のとおり口角炎に限り男子の有症率が高く、女子4.3%に対し男子では4.7%である。

他の症候ではすべて女子の発現率が高く、特に貧血、毛孔性角化症、浮腫の差は大きい。

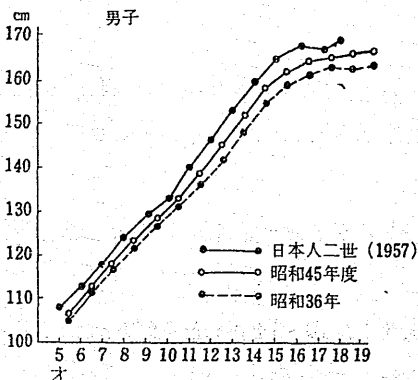
5. 体位

戦前における国民の体位、特に青少年の体位は、保健衛生の進展或いは社会環境の改善等に伴って逐年向上し、大正末期から昭和初期にかけての上昇がめだち昭和12~14年頃には身長、体重などすべて戦前の最高水準を示した。しかし昭和15年頃からは食糧事情の窮迫と生活環境の悪化の影響をうけて国民の体位は急速に低下し、

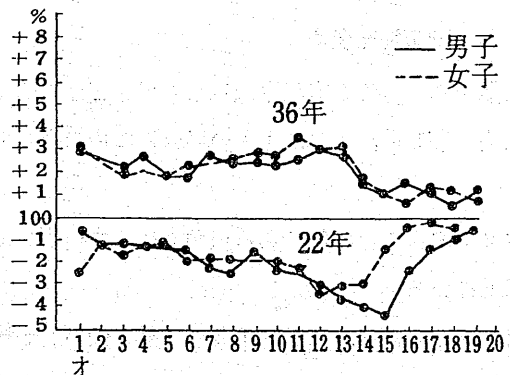
終戦直後の昭和22年に実施した国民栄養調査による身体計測の結果では驚くべき体位の減退が明らかにされた。さらに昭和24年頃からは青少年層の体位の回復が目覚しく昭和27、28年にはおむね戦前の水準にまで達し、その後も栄養摂取水準の上昇に伴って体位も順調に伸びつづけてきた。

すなわち前年の昭和35年度における傾向をみても殆んどすべての年令層を通じて身長、体重の増加がみられ、特に発育盛りの年令層での向上が著しく、逆に10代の後半期における増加量が減った。しかし昭和36年度調査の成績では第25表のとおり、前年度に比べて男子ではほぼ同じ水準であるが、女子は一部の年令層で身長、体重の減少がみられ、特に農村における女子の体重が大半の年代で減少したのが目立っている。

第12図 アメリカ生れの日本人二世との比較 (身長)



第13図 身長の前戦戦後の比較 (戦前の最高水準=100)



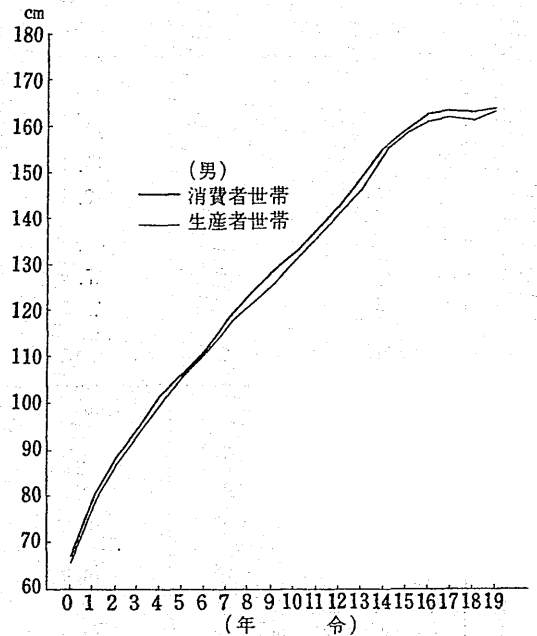
第27表

身長・体重の対前年の増減(性別)

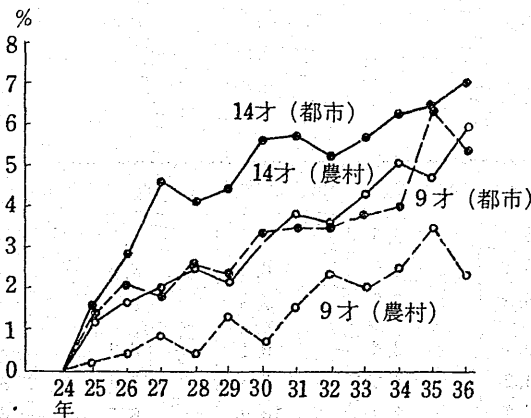
年 令	身 長				体 重			
	男		女		男		女	
	cm	対前年増減	cm	対前年増減	kg	対前年増減	kg	対前年増減
0	66.0	+ 0.6	64.0	- 0.2	7.66	+ 0.02	6.97	- 0.03
1	78.1	+ 0.2	77.0	+ 1.0	10.30	+ 0.03	9.76	+ 0.17
2	86.7	+ 1.0	85.4	+ 1.1	12.17	- 0.03	11.68	+ 0.18
3	93.3	- 0.1	91.9	- 0.7	14.00	- 0.02	13.41	- 0.17
4	100.1	+ 0.5	98.2	- 0.3	15.64	+ 0.12	15.00	- 0.04
5	105.0	+ 0.3	104.0	0	16.85	- 0.27	16.36	- 0.15
6	110.9	+ 0.1	110.2	+ 0.5	18.99	- 0.02	18.19	- 0.21
7	117.3	+ 0.6	115.8	+ 0.3	21.10	+ 0.06	20.28	- 0.30
8	121.8	+ 0.3	120.9	+ 0.3	23.06	- 0.22	22.70	+ 0.14
9	126.6	0	126.0	0	25.36	- 0.28	24.98	- 0.14
10	131.1	+ 0.3	131.4	- 0.3	27.72	+ 0.08	28.02	- 0.14
11	136.2	+ 0.3	137.4	- 0.6	30.66	+ 0.18	31.74	- 0.38
12	141.9	+ 0.9	144.0	+ 0.3	34.58	+ 0.40	36.60	+ 0.06
13	147.9	+ 0.3	148.2	+ 0.3	39.30	+ 0.20	40.92	+ 0.22
14	154.5	+ 0.9	150.6	+ 1.2	44.32	+ 0.38	44.46	+ 0.10
15	158.7	0	151.8	+ 0.3	49.00	- 0.44	47.66	- 0.28
16	162.0	+ 0.9	151.8	- 0.3	52.74	- 0.02	48.56	0
17	162.9	- 0.3	152.4	+ 0.6	54.36	- 0.50	49.58	- 0.52
18	162.6	- 0.3	152.7	+ 0.3	54.98	- 1.00	50.66	+ 0.88
19	163.5	+ 0.3	152.4	- 0.3	55.80	+ 0.36	50.26	- 0.34

たとえば男子の10~14才では前年に比べて身長が0.3~0.9 cm 体重0.08~0.40kgと増加しているが、女子にあっては10~11才の年令層は身長で0.3~0.6 cm、体重0.14~0.38 kgの減少がみられるなど伸び悩みの傾向にある。しかし、胸囲、座高等も含めて国民の体位は平均して前年よりも向上しており戦前に

第15図 業態別身長平均値



第14図 都市と農村の身長发育の推移



比べても第16図のとおり現在で身長では3%前後、体重は6%前後の向上となっている。

業態別発育状況

生産者世帯と消費者世帯の身長、体重の対前年の増減をみると生産者世帯の男子は1~2の例外を除いて身長は殆んどどの年齢層で増加し、特に10~14才では0.3~1.8cmの伸びがみられるが体重は全体的に停滞している。

消費者世帯の男子は前年に比べ身長、体重ともに増加しており、10~14才では身長が0.3~0.9cm、体重は0.24~0.70kgの上昇がみられる。

次に女子についてみると生産者世帯の女子は前年度に身長、体重ともに著しい伸びがみられたのであるが、本年は殆んどどの年齢層を通じて身長、体重とも低下しており特に体重の減少が目立っている。年齢別にみると身長が10~12才では0.3~0.9cm、体重では10~14才で0.02~1.32kgの減少となっている。

消費者世帯の女子は身長、体重ともに平均して前年に比べ向上しており、身長は12~14才で0.2~1.2cm、体重は10~14才で0.08~1.08kgの増加がみられる。

性別、年齢階級別身長別(正常80%)体重表

36年度の国民栄養調査では35年度に引き続いて30~39才、50~59才、70才以上の三年令階級について身長と体重の関係を示す身長体重相関度数分布表を作成し、これをもとにして栄養審議会が被調査者の80%が入るような範囲の身長別正常体重表を作成した。

この身長別正常体重表を作るにあたっては、まず性別、年齢階級別にそれぞれ身長別体重の回帰直線を描き各身長に対する体重平均値および被調査者の80%が入るような範囲の体重の上限値および下限値を設定したものである。

このうち体重平均値は理論的にみてある一定の身長に対し現在の日本人の平均体重がどの位であるかを示したものであり、例えば30~39才の男子で身長160cmの人の場合でみると、現実には様々な体重の人がいるが、これらの人達の体重を平均してみると55.1kgであるということである。

第28表 身長別体重表の正常体重(80%)範囲外の者の比率(%)

上限値以上(肥りすぎ)の人の割合

			20~29才	30~39才	40~49才	50~59才	60~69才	70才以上
男	{	全 国	10.5	10.4	11.3	11.8	12.1	8.8
		生産者世帯	10.2	8.4	6.2	8.7	12.4	7.3
		消費者世帯	10.5	12.0	12.2	14.4	11.2	10.5
女	{	全 国	15.0	11.0	10.7	8.7	10.8	10.0
		生産者世帯	17.6	6.8	7.6	9.5	10.4	9.5
		消費者世帯	13.5	12.8	13.3	9.8	11.9	15.7

下限値以下(やせすぎ)の人の割合

			20~29才	30~39才	40~49才	50~59才	60~69才	70才以上
男	{	全 国	6.3	5.3	6.5	7.1	7.5	4.7
		生産者世帯	3.7	3.4	4.0	6.5	5.8	4.6
		消費者世帯	8.2	6.8	7.5	8.3	9.1	5.6
女	{	全 国	14.0	6.1	6.6	9.1	6.8	6.9
		生産者世帯	9.5	4.2	4.2	7.8	5.5	8.2
		消費者世帯	16.3	6.7	7.4	10.4	8.5	6.9

第29表

身長別正常(80%)体重表, 性別年令階級別(男)

身長 cm	体						重						kg	
	20 ~ 29才		30 ~ 39才		40 ~ 49才		50 ~ 59才		60 ~ 69才		70才以上			
	平均値	上下限值	平均値	上下限值	平均値	上下限值	平均値	上下限值	平均値	上下限值	平均値	上下限值	平均値	上下限值
138													41.6	± 7.8
139										42.1	± 6.3		42.0	± 7.9
140										42.7	± 6.4		42.5	± 8.0
141								43.2	± 6.4	43.2	± 6.4		43.0	± 8.1
142								43.8	± 6.5	43.8	± 6.5		43.5	± 8.2
143					44.6	± 6.6	44.5	± 6.6	44.4	± 6.6	44.0	± 8.3		
144			44.6	± 6.2	45.3	± 6.7	45.1	± 6.7	45.0	± 6.7	44.4	± 8.4		
145	45.4	± 5.3	45.2	± 6.2	45.9	± 6.8	45.7	± 6.8	45.6	± 6.8	44.9	± 8.5		
146	46.0	± 5.4	45.9	± 6.3	46.6	± 6.9	46.4	± 6.9	46.1	± 6.9	45.4	± 8.6		
147	46.6	± 5.4	46.5	± 6.4	47.3	± 7.0	47.0	± 7.0	46.7	± 6.9	45.9	± 8.7		
148	47.3	± 5.5	47.2	± 6.5	48.0	± 7.1	47.6	± 7.0	47.3	± 7.0	46.4	± 8.8		
149	47.9	± 5.6	47.9	± 6.6	48.7	± 7.2	48.3	± 7.1	47.9	± 7.1	46.8	± 8.8		
150	48.5	± 5.7	48.5	± 6.7	49.3	± 7.3	49.0	± 7.3	48.5	± 7.2	47.3	± 9.0		
151	49.2	± 5.8	49.2	± 6.8	50.0	± 7.4	41.6	± 7.3	49.1	± 7.3	47.8	± 9.0		
152	49.8	± 5.8	49.8	± 6.9	50.7	± 7.5	50.2	± 7.4	49.6	± 7.4	48.3	± 9.1		
153	50.8	± 5.9	50.5	± 7.0	51.4	± 7.6	50.8	± 7.5	50.2	± 7.5	48.8	± 9.2		
154	51.0	± 6.0	51.2	± 7.1	52.0	± 7.7	51.5	± 7.6	50.8	± 7.6	49.2	± 9.3		
155	51.6	± 6.0	51.8	± 7.1	52.7	± 7.8	52.1	± 7.7	51.4	± 7.6	49.7	± 9.4		
156	52.3	± 6.1	52.5	± 7.2	53.4	± 7.9	52.8	± 7.8	52.0	± 7.7	50.2	± 9.5		
157	52.9	± 6.2	53.1	± 7.3	54.1	± 8.0	53.4	± 7.9	52.6	± 7.8	50.7	± 9.6		
158	53.5	± 6.3	53.8	± 7.4	54.7	± 8.1	54.0	± 8.0	53.1	± 7.9	51.2	± 9.7		
159	54.1	± 6.3	54.5	± 7.5	55.4	± 8.2	54.7	± 8.1	53.7	± 8.0	51.6	± 9.7		
160	54.8	± 6.4	55.1	± 7.6	56.1	± 8.3	55.3	± 8.2	54.3	± 8.1	52.1	± 9.8		
161	55.4	± 6.5	55.8	± 7.7	56.8	± 8.4	56.0	± 8.3	54.9	± 8.2	52.6	± 9.9		
162	56.0	± 6.5	56.4	± 7.8	57.5	± 8.5	56.6	± 8.4	55.5	± 8.3	53.1	± 10.0		
163	56.6	± 6.6	57.1	± 7.9	58.1	± 8.6	57.2	± 8.5	56.0	± 8.3	53.6	± 10.1		
164	57.3	± 6.7	57.8	± 8.0	58.8	± 8.7	57.9	± 8.6	56.6	± 8.4	54.0	± 10.2		
165	57.9	± 6.8	58.4	± 8.1	59.5	± 8.8	58.5	± 8.7	57.2	± 8.5	54.5	± 10.3		
166	58.5	± 6.8	59.1	± 8.2	60.2	± 8.9	59.2	± 8.8	57.8	± 8.6	55.0	± 10.4		
167	59.1	± 6.9	59.7	± 8.2	60.9	± 9.0	59.8	± 8.9	58.4	± 8.7	55.5	± 10.5		
168	59.8	± 7.0	60.4	± 8.3	61.5	± 9.1	60.4	± 8.9	59.0	± 8.8	56.0	± 10.6		
169	60.4	± 7.1	61.1	± 8.4	62.2	± 9.2	61.1	± 9.0	59.5	± 8.9	56.4	± 10.6		
170	61.0	± 7.1	61.7	± 8.5	62.9	± 9.3	61.7	± 9.1	60.1	± 8.9	56.9	± 10.7		
171	61.6	± 7.2	62.3	± 8.6	63.6	± 9.4	62.4	± 9.2	60.7	± 9.0	57.4	± 10.8		
172	62.3	± 7.3	63.0	± 8.7	64.2	± 9.5	62.0	± 9.3	61.3	± 9.1	57.9	± 10.9		
173	62.9	± 7.4	63.7	± 8.8	64.9	± 9.6	63.6	± 9.4	61.9	± 9.2	58.4	± 11.0		
174	63.5	± 7.4	64.4	± 8.9	65.6	± 9.7	64.3	± 9.5	62.5	± 9.3	58.8	± 11.1		
175	64.1	± 7.5	65.0	± 9.0	66.3	± 9.8	64.9	± 9.6						
176	64.8	± 7.6	65.7	± 9.1	67.0	± 9.9	65.6	± 9.7						
177	65.4	± 7.6	66.3	± 9.1	67.6	± 10.0	66.2	± 9.8						
178	66.0	± 7.7	67.0	± 9.2										
179	66.6	± 7.8	67.7	± 9.3										
180	67.3	± 7.9	68.3	± 9.4										

注) 20~29才, 40~49才, 60~69才は, 昭和36年7月, 他は37年6月である。

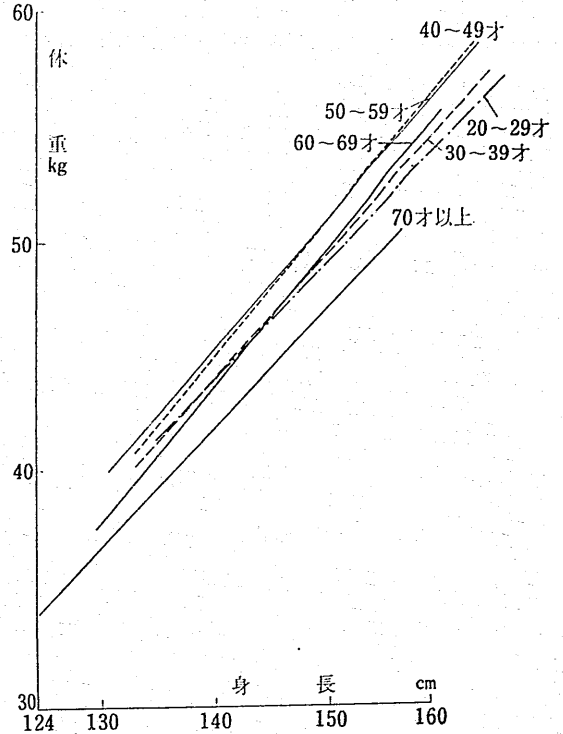
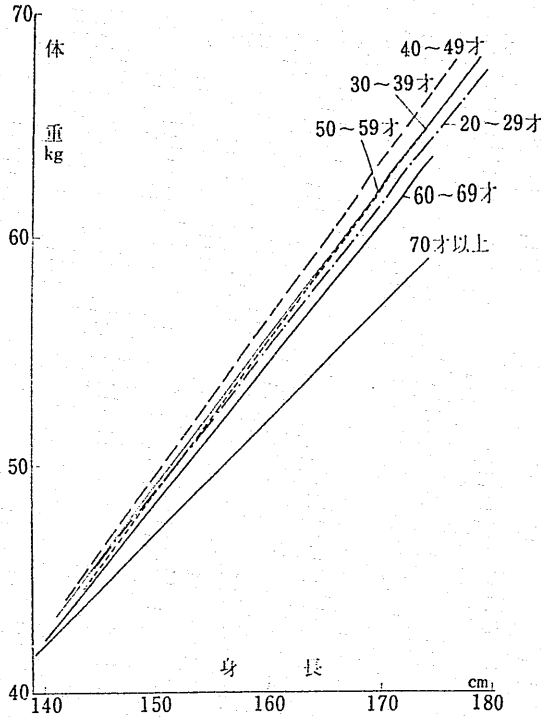
栄養審議会答申(昭和36年7月, 昭和37年6月)

第16図 年令階級別身長別正常 (80%) 体重

第17図 年令階級別身長別正常 (80%) 体重

男子

女子



次に体重の上限値と下限値は、上限値以上の者、下限値以下の者が現状の体位からみてそれぞれ10%ずつになるように計算されたものであり、身長の高いものでは上限と下限の幅が狭く、身長の高い者程体重の幅が広くなるように作られている。

従って実際に自分の身長から体重を当ててみて上限値以上にある人は肥りすぎ、下限値以下の人はやせすぎと一応考えて差し支えないものと思われる。

次に昭和35年度国民栄養調査成績より作成した20~29才、40~49才、60~69才の三年令階級のものと合せて観察してみると男子では40才代が最も身長の割に体重が重く肥っていることがわかる。また、30代、50代も20代よりも体重が重い60代になると身長も低くなると同時に体重も低下し特に70代になると急速な低下となっている。

女子については男子と異なり60代においても20代を上回る平均体重を示し女性はかなり年取っても肥った人が多いことを示している。

次に都市（消費者世帯）と農村（生産者世帯）の別に上限値以上の者、下限値以下の者が何%いるかを比較してみると次のとおりである。

上限値以上の人は一応現在の国民体位の平均からみると肥りすぎと思われるが、このような人は男女とも20代を除くとほぼ農村よりも都市の方に多く特に50才代の男子では14.4%、70才以上の女子では15.7%の多きを占めている。

もっともこれらの傾向も20才代の女性では全く異なる。すなわち農村の女性についてみれば肥りすぎと思われる人が17.6%もみられるのに反し、下限値以下すなわち若干やせすぎと思われる者は9.5%と少な

く、一方、都市の女性についてみれば肥りすぎと思われる人は13.5%であるのに反し、やせすぎと思われる者は16.3%もみられる。

次にやせすぎと思われる人の割合をみると、これも男女を通じて都市の方が多く農村が少ない。

特に農村の男子ではやせすぎと思われる人は4.0%以下であるが50才代をすぎると都市程ではないがこれらの比率もやゝ増加する。

結局全般を通じてみれば農村の30~40才代の人はやせすぎ肥りすぎと思われる者が少なく大体一定した体格を有しているといえよう。

6. 歯 牙 異 常

1) 年次別発現率

国民栄養調査では、栄養摂取状況調査と併せて欠損歯、う歯等の歯牙疾患にどれくらい罹患しているかを調査している。

この数年う歯の有症率は年々増加の傾向にあり、昭和36年度成績では、う歯の有症率が男子75.0%、女子79.4%と前年の男子71.9%、女子78.5%を上回る発生をみている。

次に1人当りのう歯の数については男子5本、女子6本で31年頃から依然として変化がみられない。

ただし、このう歯については処置歯、未処置歯にわけて調査していないので、その内容の実態については明らかでない。

なお、欠損歯の保有者率をみると男子よりも女子の有症率が高く36年度成績では男子の36.6%に対し女子は44.5%となっており、年次別には大差はみられない。

なお、1人当りの欠損歯数においても、男子の8本に対して女子10本となっている。

第31表 欠損歯の年次別発現率

年 度	有 症 率 %		1人当り本数	
	男	女	男	女
昭和30年	34.5	41.7	7	9
昭和32年	35.7	44.3	8	10
昭和34年	36.7	44.2	8	9
昭和36年	36.6	44.5	8	10

第32表 う歯の業態別発現率

	男		女	
	有 症 率 %	1人当り本数	有 症 率 %	1人当り本数
生産者世帯	73.5	5	77.5	6
消費者世帯	76.3	5	80.8	6
その他の世帯	72.7	5	77.8	6

第33表 欠損歯の業態別発現率

	男		女	
	有 症 率 %	1人当り本数	有 症 率 %	1人当り本数
生産者世帯	25.7	9	44.6	12
消費者世帯	34.9	7	44.3	8
その他の世帯	35.9	9	45.6	11

2) 性別年令階級別発現率

性別、年令階級別に欠損歯、う歯の発生状況についてみると殆んどすべての年令層において女子の有症率が高い。年令別にう歯の有症率の最も高い年令層は5~9才で男子91.1%、女子92.5%であり、全く正常なものは男女ともに10%に満たない状態にある。

3) 業態別発生率

う歯の発生状況を各業態別にみると、消費者世帯が男子76.3%、女子80.8%で最も高く、次いで生産者